

地域の伝統を传承していく

明和小学校「伝統芸能発表会」開催

明和小学校は、2月22日に「伝統芸能発表会」を開催し、1年生から4年生の児童が、保護者や地域の方など約70人に伝統芸能を披露しました。

発表会は、4年生による「梁取神楽」から始まり、続いて1、2年生が「大倉八木節」を舞い、最後に3年生が「小林早乙女踊り」を披露し、その一生懸命な姿に参観者から拍手が送られました。

「伝統芸能発表会」は、ESDの一環として取り組まれており、地元の保存会の方にご協力をいただきながら、実施されています。



▲4年生による梁取神楽

雪国只見町を熱くする

「ただみスノースポーツフェスティバル」開催



▲開会式後にゲストアスリートの皆さんと記念撮影

NPO法人ただみコミュニティクラブの主催で「ただみスノースポーツフェスティバル2024」が、3月3日に亀岡サンドバレーコートで行われました。

ゲストアスリートには、大山未希氏、井野亜季子氏、永井雄太氏、佐々木翼氏、森重瑞紀氏が招かれ、参加者に指導を行うだけでなく、一緒に競技に参加し、会場は大盛り上がりでした。

参加者は「雪の上の上は、体が動かしにくかったり、ボールが予想外の動きをするのですが、そこが凄く楽しいです」と話し、冬晴れの中でスポーツを楽しみました。

みんなでひなまつりを楽しみました

かるがもクラブ「ひなまつり」

令和5年度最後のかるがもクラブが3月1日に行われ、7組の親子が参加しました。

始めに遊びをとおして親子の触れ合いを楽しんだ後、会場に紙で作った花を飾り付けたりし、ひなまつりを楽しみました。

来年度もかるがもクラブは継続いたします。開催日時等については、おしらせばんでご案内します。対象は未就学児の皆さんとその保護者で、参加は自由なのでお気軽にお越しください。



▲手作りの扇子をもって記念撮影

たくさんの方にご来場いただきました

各地区で公民館まつりなどが開かれました

「朝日のいいもの集めちゃった市」(朝日公民館)は3月3日、「只見公民館まつり」(只見公民館)と「明和公民館まつり」は3月10日に開かれ、地元地区の方をはじめとする多くの方が来場しました。

各会場では、地元団体が製作したつる細工などの伝統工芸品や小中学生の成果物など、多くの作品が展示された他、伝統芸能発表や空手の演舞、踊りなどが披露されました。また、地区ごとにそばやカレーなどの販売も行われ、一日中賑わいました。



▲染め物教室や陶芸教室など冬期講座の作品も展示されました(朝日)



▲神居塾只見同好会は演舞や試割りを披露しました(只見)



▲抹茶コーナーでは、点てたお茶を堪能しました(明和)

希少な生き物と共存していく

セミナー「ワシやタカとともに生きる」開催

希少猛禽類との共生をテーマに、横山隆一氏(公益財団法人日本自然保護協会参与)、松井睦子氏(AKAYAプロジェクト地域協議会)を講師に招き、ユネスコエコパーク特別セミナー「ワシやタカとともに生きる」が3月20日に開催されました。

横山氏は、猛禽類は神様や妖怪のモデルとして昔から身近なものであったことを紹介された他、自然の豊かさの変化を知るメーターの役割を持つイヌワシの生態について、狩り場が必要であり、落ち着いて暮らせる静かな環境の創出が大切であるという保全上の課題を解説されました。

松井氏は、イヌワシやクマタカの保全の先進地である「みなかみユネスコエコパーク」の「AKAYAプロジェクト」について紹介され、様々なワーキンググループによって赤谷地区の持続的な地域づくりの取組を進められていることや、30年以上続いているイヌワシの繁殖状況調査及び狩場創出のための伐採試験地の導入など先進的な取り組みを紹介しました。



▲町内外から30人を超える参加者が来場し、関心の高さがうかがえました。



▲町内に生息するクマタカ